

① 学習指導案

プログラム	No. 7 「 看板からまちの風景を考える 」
单元名 (全16時間)	黒板アートで店頭ボードデザイン
学習のねらい	お店の特徴やおすすめを捉え、店頭ボードを黒板アートでデザインすることを通して、自分たちの地域の店に対する貢献や社会参画しようとする気持ちをもつことができる。
学習内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 自分たちなりに描いた黒板アートは店のよさを広めているかな 2 デザインの専門家から表現方法を教えてもらおう 3 自分たちの思いがある店のこだわりを取材しよう 4 何を黒板アートで表現するべきか、情報を整理しよう 5 分析した情報をもとに、黒板アートの専門家ともう一度描こう 6 黒板アートをお店の人やお客さんからフィードバックをもらおう 7 繰り返し黒板アートをデザインしよう
参考資料 準備品 実施場所等	学区内商店街

手作りの魅力!黒板アートで店頭ボードデザイン

(全71時間 総合65時間 国語6時間)

1 宮谷タイムはどんな学習か(5時間)

- 宮谷タイムはどんな学習か考え、方法と目的について話し合おう。
- 宮谷タイムで関わっていくお店候補を Google マップで調べよう。
- Google マップで分かったこと、もっと調べたいことについて話し合い、実際にお店調べをする計画を立てよう。
- 商店街を実際に歩き、分かったことを整理しよう。
- これから取り組むことについてまとめよう。

・知らないお店や商店街があることが分かった。
・Google マップでは分からなかったけど、実際に商店街を歩いてみると店の前に黒板を出している店がたくさんあった。
・黒板にイラストを書いたりおすすめて書いたりしてお店の役に立ちたいな。

3 黒板アートで店頭ボードをデザインしたい(16時間)

- 4年4組の黒板アートは、お店に貢献できるか考えよう
- お店の人に話を聞くための準備をしよう。
- 商店街やお店の方の話を聞き、私たちに店頭ボードのデザインを任せてもらえないか依頼しよう。
- 黒板アートの専門家に描き方のコツを教えてもらいたい。
- どのようなにするか、店の方の思いを調査しよう。
- 店の方の思いと自分たちの思いを込めて、デザイン構想しよう
- 繰り返し黒板アートに挑戦しよう。

・やってみると黒板アートが上手になってきた。
・私たちの黒板アートをもっとバージョンアップしたい。
・もっとお店のこだわりや、お店の人の思いを黒板アートで表現しなければいけないな。

2 黒板アートについて調べて試してみたい(15時間)

- 黒板アートで学習していく計画を立てよう。
- 黒板アートの表現方法や特徴について調べよう。
- 黒板アートの技法や表現方法、どんな特徴があるか調べてきたことをクラスでまとめて共有しよう
- 黒板アートの特徴を生かして、自分たちでも表現したいことを練習してみよう。

・あんなにすごい黒板アートに私たちも挑戦してみたい。
・黒板アートを練習すれば、店の前の黒板を自分たちでデザインすることができるかもしれ

・自分たちだけでは難しいことも、プロと関わることでよりよい黒板アートがデザインできたことが嬉しい。
・黒板アートの魅力を生かして、もっと私たちができることがありそう。やってみよう。





4 黒板アートで宮谷商店街や店のよさを広めたい!(20時間)






- 自分たちなりに描いた黒板アートが店のよさを広めることにつながっているかを考えよう。
- 店の集客につながる店頭ボードをバージョンアップするために、デザインの専門家から表現方法を教えてもらおう。
- 自分の思いがある店のこだわりを取材しよう。
- 何を黒板アートで表現すべきか情報を整理しよう。
- 分析した情報をもとに、店のこだわりや店の人の思いを黒板アートで表現しよう。
- 私たちの黒板アートの影響について、店の方やお客さんからフィードバックをもらおう。
- 集めた情報を参考に、よりよい黒板アートにするために必要なことについて話し合おう。
- 話し合ったことを取り入れて、黒板アートに詳しい方と一緒に黒板アートに取り組もう。
- お店に黒板アートを置いてもらい、効果を調査しよう。
- お店の方に、感謝の気持ちを伝えよう。

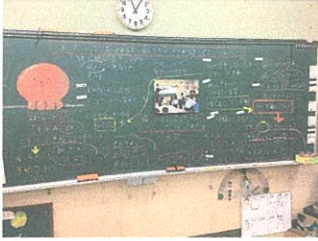



5 黒板アートでもっと地域貢献に生かしたい!(12時間)

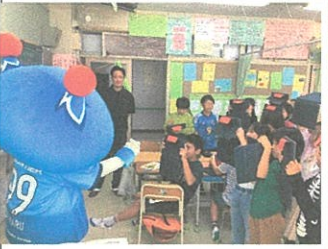




- 黒板アートを、より地域のために役立てられないか考えよう。
- ミツ沢球技場をホームにしている横浜FCと黒板アートで地域のお店を盛り上げよう。
- デザインした黒板アートについて、横浜FCやお店の人から反響をもらおう。
- これまでの学習を振り返り、黒板アートを通してどんな力が身についたか、今後社会とどのように関わっていくかなどについて話し合う。


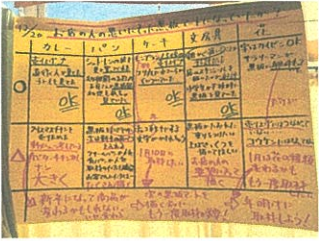
・自分たちでできる活動を考え、繰り返し取り組む中で協力してくれる方々がいたことに感謝。
・自分たちが本気になって取り組んできたからこそ、店の方や地域の方に受け入れてもらえた。
・私たちもお店で役に立つことができた。

時間数	場所	概要	活動記録(写真)	対象者の反応
1	商店街	お店の様子や看板を調べよう	<p>どんな看板があるかを歩いて調査</p> 	<p>お店ごとに店頭に出ている看板が違う。今まで注意して見てなかったけど、看板を意識しながら商店街を歩いてみると、結構あった。でも、パッとみて興味を持てるのかな。</p>
2	教室 学校周辺	<p>自分たちが描いた黒板アートがお店の貢献につながっているかを考えよう</p> 	<p>黒板を見てもらいながらお店の人にインタビュー</p> 	<p>自分たちの活動が喜ばれて、自分たちも嬉しい。ただ、黒板アートをもっと詳しく知りたい。</p>
4	教室	「黒板アート」とはどのようなものか、専門家に教えてもらおう	<p>デザインについてレクチャーを受ける</p> 	<p>黒板アートには技法があり、今まで自分たちがやってきたこととはちょっと違う。練習が必要だな。</p>

1	商店街	自分たちが描いた黒板アートをお店に置いてもらえるか交渉しに行こう。	<p>実際に黒板を置かせてもらった</p>  	<p>お店の人が喜んでくれた。 2週間置かせてもらえるから、引き取りに行く時にインタビューして効果を確かめよう。</p> <p>引き取りに行き、インタビューしてみると、お店のおすすめとはちよつと違うことがわかった。</p>
2	図工室	デザインの専門家（スイミーデザインラボ）を招いて、デザインについて教えてもらおう。そして、まちにある家電量販店の壁面デザインにチャレンジしよう	<p>保護者、地域の方と一緒にまちの壁面デザインを構想する</p>  	<p>デザインに必要な「キャッチコピー」「説明文」「絵」をセットで考えることが大事だということがわかった。 黒板アートでデザインするには、お店の人の思いを大切にしないといけない。</p>
1	学校周辺 商店街	お店の店頭ボードや店の人にこだわりを取材することで情報収集	<p>お店の人のどんな思いを伝えることができればよいか考え、実際にお店に取材に行く。</p> 	<p>国語の学習で依頼の仕方を学び、学んだことを実生活で生かすことに期待感をもっている</p>

1	教室	集めた情報から、自分たちはどのようなデザインをするか、情報を整理する	何を一番伝えるべきか、情報を分析して整理する 	自分たちの思いよりも、店の人が何を大切にしているかが分かった
4	教室	黒板アートの専門家と関わりながら、改めて黒板アートにチャレンジする	黒板アートの専門家と共に自分たちのデザインを表現する  専門家の描く黒板アートの迫力に興奮する 	どのように描いたら店の人が喜んでくれるか、他者意識をもってとりこんでいた。黒板アートの専門家からアドバイスをもらいながら、自分たちのアートを見直すことができていた。
	教室	休み時間にも積極的に黒板アートにチャレンジする	いつでも描くことができるのが、黒板アートのよさ 	繰り返し試し、上達する自分を自覚する

2	教室	同じ地域でまちづくりに関わる「横浜FC」とコラボしよう	横浜FCからフリ丸の肖像権許可をもらった 	自分たちの活動を同じ地域のクラブが協力してくれることに心強さを感じている。
2	教室	お店の人へのインタビューと、フリ丸を入れたデザインを考えて黑板报アートを完成させよう。	お店ごとに黑板报アートをデザインする。  	購入した店頭黑板报にデザインしながら、お店の人の思いがデザインされているか、表現の方法は適切かを話し合いながら進めていた。
1	学校周辺 商店街	デザインした黑板报アートをもう一度お店に持っていこう	黑板报アートをお店に持って行った。  	自分たちの黑板报アートが店頭に出ているのを見て、興奮していた。 自分たちの成長をお店の人も賞賛してくれて、もっといいものを作ろうと意気込んでいた。 お客さんからも商店街が華やかになったと激励され喜んでいました。

2	エディオン 横浜駅 西口	スイミーデザインラボ との共同プロジェクト が完成。 プレオープンに招待し てもらう。		自分達の活動が実際の店舗をデザインすることにつながり、自信をもっていた。 テレビ取材もしてもらい、自己肯定感を高めていた。
1	学校周辺 商店街	黒板アートの成果と課題をもらおう	お店にインタビューに行き、店の看板としてどのような影響があったかを取材した。	予想外のフィードバックをもらい、課題を整理することになった。
1	教室	取材したことを整理した		年明けの店頭ボードデザインに向けて意欲を持って冬休みに入った。

③ 実施内容について

<p>(1) 実施にあたり工夫した点</p> <ul style="list-style-type: none">• 学区である横浜駅西口前の商店街と、宮谷小学校前の商店街と人通りや賑わいを比較することで、自分達の学校周辺のお店も盛り上げたいという思いを持つことができた。学校前の商店街の店頭にあるいくつかの黒板に目を向けることで、自分達にもできるのではないかという思いを持ったこと、黒板が身近にあることから練習がいつでもできることが4年生として活動が頻繁にできた。また、お店に協力してもらい、黒板アートをインスタグラムに載せてもらい、間接的に賞賛の言葉を目にしたことも、意欲を掻き立てた。黒板アートの専門家とデザインの専門家それぞれに出会うことができたことも、子供達にとって本物体験を重ねることができた。
<p>(2) 実施にあたり苦労した点</p> <ul style="list-style-type: none">• 実際に子ども達が描いた黒板アートを店に出してもらおうことの許可をもらうことが当初難しかった。商売に直結することもあり、実物を見てもらうまで積極的な賛成は得られなかった。また、黒板アートのスキルが上がるまでに練習の時間が必要だった。店の人の思いを聞き出せるまでのこちら側の本気度と、店側の温度差もあったが、何度も足を運ぶことで子供達の思いも伝わり、繰り返し関わることができた。
<p>(3) 児童の反応</p> <ul style="list-style-type: none">• 最初に黒板アートを描いた時には店の人に承諾してもらえなかったと思っていなかったようだが、繰り返し店の人と関わる中で「もっと自分達にできることをやりたい」と思いを強めていった。黒板アートの専門家と関わり、プロの技法とコツを教えてもらおうと、休み時間も練習してスキルを磨いていた。また、店頭ボードを買うことができると知った後は、店の人にどんな黒板がいいかを取材したり、チョークも自分達で選んだり活動の幅が一気に広がった。そして、デザインの専門家と関わることで絵だけではなく、店頭ボード全体の構成を考えることができるようになり、デザイン構成について対話しながら黒板アートを描くようにもなった。店の人からも成長を求められ、黒板アートのスキル向上はもちろん、店の人との関わり方も上手になってきている。店頭に並ぶ自分達の黒板が地域の人にも認められ、商店街を自分達で作っているという思いを持っている。
<p>(4) 担当教諭及び担当外教諭の変化</p> <ul style="list-style-type: none">• 子供達が授業以外の時間にもそれぞれの店に出向き、黒板アートの様子を見たりお客さんに印象を聞いている姿を見ると、この活動を行うことで広く地域と関わる子供達の成長に携わることができたという実感がある。エディオン横浜駅西口店の壁面デザインは今後も長く残るものであり、子供達が地域と保護者を巻き込みながら活動できる存在であると、改めて教師としての自分のあり方を問い直すことができた。
<p>(5) 今後の課題と取り組み〔児童の思考過程と指導内容との関連付けから、留意すべき事項等〕</p> <ul style="list-style-type: none">• 黒板アートの専門家、デザインの専門家、横浜FCと多方面で連携できたので、自分達の力で社会と関わり、社会を変えることができるという実感を持ってほしい。

②学習指導案


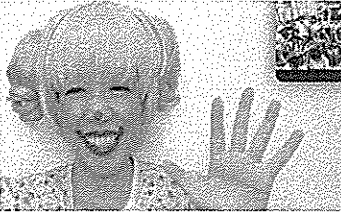
小単元名	風船で宮谷のまちの方々を笑顔にしよう
学習ねらい	自分たちの「まち」というと横浜駅近辺を思い浮かべると、高層ビル、大きなデパート、人の多さや交通の充実などが児童の印象としてある。しかし、小学校周辺(宮ヶ谷の町)に目を向けると、静かで活気が少ないと印象をもつ児童が多い。景観を通して、静かな宮ヶ谷の町を笑顔溢れる地域になるように自分たちにできることは何かを考える。
学習内容	①学習の見通しをもつ ②前回のイベントで出た課題や成果をまとめ、次に向けて計画を立てる。 ③宮谷の街を笑顔にするためには、どのような工夫が必要なのかを考える。 ④バルーンアートの練習、教える練習をする。 ⑤バルーンパフォーマー「キャサリンさん」に人を楽しませる方法やコツを聞く。 ⑥地域の方へのアンケートを作る。 ⑦イベントに向けて役割分担をする。
参考資料 準備品 実施場所	・バルーンアートの本 ・バルーンパフォーマーキャサリンさんとの関わり ・バルーンアート用の風船 イベント:横浜駅西口ビブレ前広場



学習の流れ(17/22)

時間	学習内容	教師の指導・支援	評価
	1.本時のめあてを確認する	・一人ひとりの役割を果たせるように事前に自分の役割を確認する時間をとる。	
	2.前半のリハーサルを行う	・本番同様に活動ができるように場の設定を行う。 ・成果と課題がはっきり分かるように思ったことや感じたことを書く場所を作る。	自分の役割を理解し、相手意識をもって活動することができる。
	3.後半のリハーサルを行う		
	4.リハーサルの振り返りを行う	・成果と課題が整理できるように板書を工夫する。 ・成果と課題をまとめ、当日どのように活動するのかを話し合う。	

景観プロジェクト 実施報告書

宮谷小学校 4年2組

時数	場所	概要	活動記録	対象者反応
総合 2	教室	学習の見直しをもつ		前は家族、今回は、地域の方を笑顔にするという目標を立て、活動を楽しみにしていた。
総合 2	教室	前回のイベントで出た課題や成果をまとめ、次のイベントに向けて計画を立てる。		どうしたら地域の方が楽しんでくれるのかを前回のイベントをふりかえりながら考えていた。
総合 3	教室 学校周辺	宮谷の街を笑顔にするためには、どのような工夫が必要なのかを考える。		宮谷の地域の方の様子を観察し、どうしたら笑顔になるのかを家族に聞いていた。作るバルーンアートの種類も聞いていた。
休み時間 放課後 総合 2	各地域 教室	バルーンアートの練習、教える練習をする。		まずは自分たちが笑顔でバルーンアートができるように練習していた。(真剣な顔だと相手は不安になる)
総合 4	教室 (ZOOM)	バルーンパフォーマー「キャサリンさん」に人を楽しませる方法やコツを聞く。		プロと関わることでより意欲が増していた。
国語 I	教室	地域の方へのアンケートを作る。		相手意識をもってアンケートを作成する様子が見られた。
総合 I	教室	イベントに向けて役割分担をする。		自分の思いだけでなく、地域の方を楽しませるためには、という視点で考える様子が見られた。

<p>総合 2</p>	<p>教室 3年生・ 大学生と も交流</p>	<p>イベントに向け てリハーサルを 行い、もっと地 域の方を楽しま せることができ るように工夫・ 改善を行う。</p>		<p>リハーサルを行うこと で、もっと〇〇した方が 良いのではないか。とい う意見が多く出た。イベ ント当日をとっても楽し みにしていた。</p>
<p>総合 4</p>	<p>横浜駅 西口 ビブレ前 広場</p>	<p>イベント実施</p>		<p>地域の方を楽しませ るために子どもたちは全 力で活動していた。 小さい子・外国人の方・ 地域の方・車いすのか たなど幅広い方々と関 わることができた。</p>
<p>総合 1</p>		<p>イベントの振り 返りを行う</p>		<p>成果と課題を多く出す 姿が見られた。</p>

③実施内容について

(1)実施にあたり工夫した点

見通しをもって活動できるように具体例を示したり、今までの活動が振り返ることができるように掲示物を活用したりした。プロと関わる機会を設けることで、自分たちの活動に自信をもったり技術を上達させたりする時間を作った。

(2)実施にあたり苦労した点

プロと関わる時間を十分に確保できなかった。身近にプロがいると良いと実感した。

(3)児童の反応

今回の学習が、いつも生活している街にいる方々を楽しませるためにはどのような工夫が必要なのかを考えるきっかけとなり、自分の地域に関心を深めたりすることができた。また、本学級の児童は自己肯定感が低い傾向にあったが地域の方々との関わりで自分たちの活動が人を笑顔にすることができると気づき、自信をもって活動していた。バルーンアートで全体的に楽しく意欲的に活動することができた。

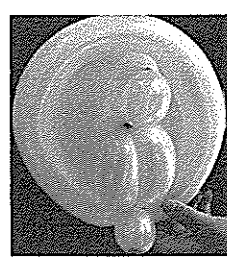
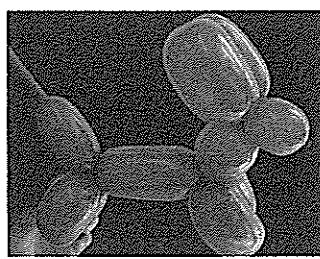
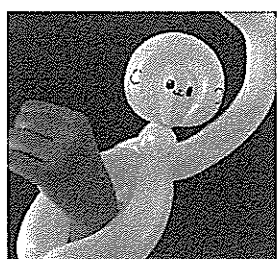
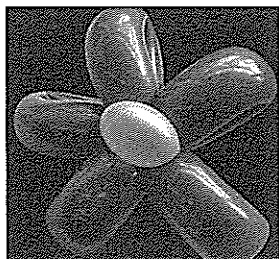
(4)担当教諭及び担当外教諭の変化

地域の方々を笑顔にしたいと活動が始まったが、子どもたちの街に対する思いや願いを知ることができた。また、達成に向かってクラス全体で話し合いを重ね、よりよい活動に向かって活動する姿が印象的だった。

(5)今後の課題と取り組み

最後のイベントに向けて今回学んだことを生かして活動していく。

○イベントで実施したバルーンアートの種類



○活動の様子

